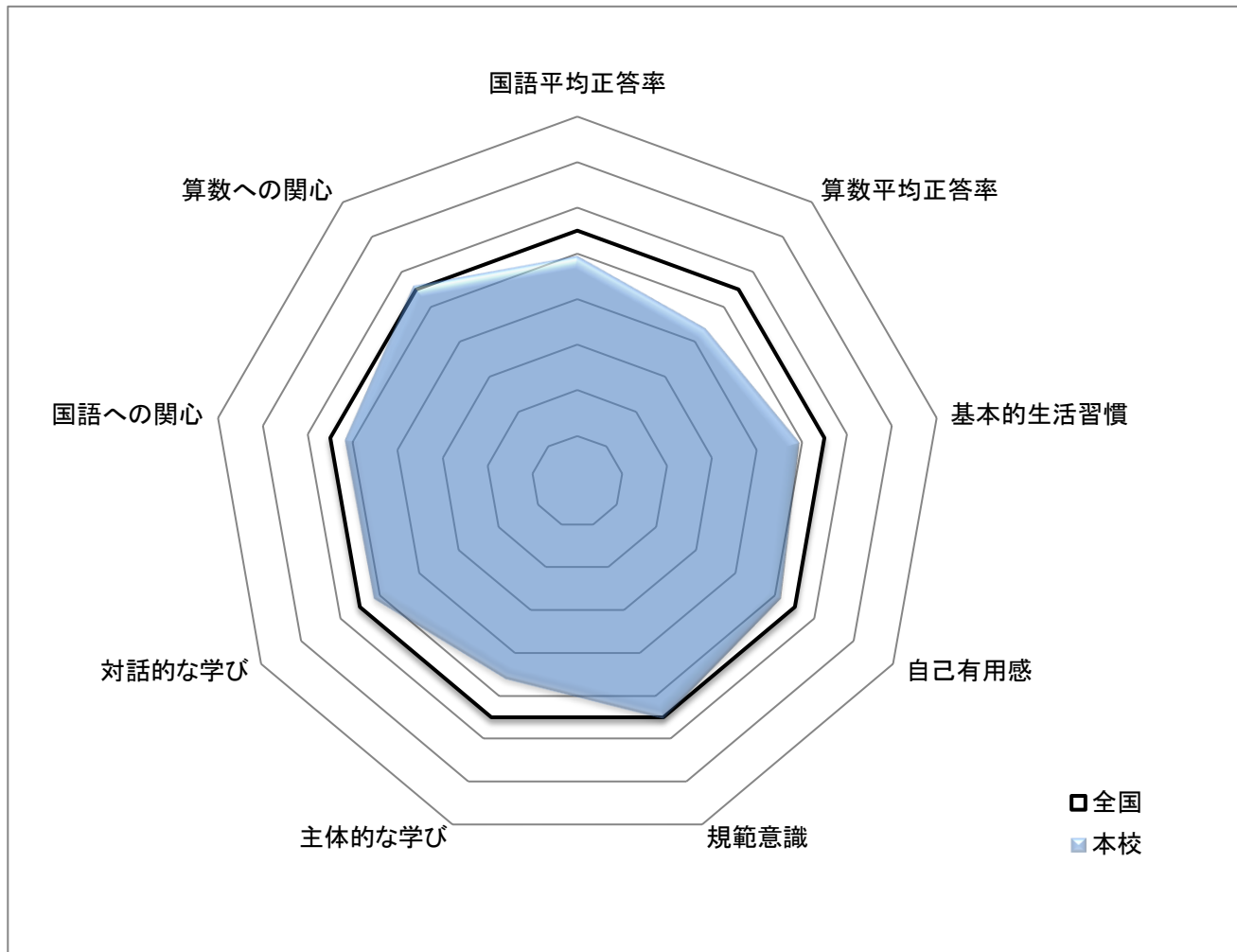


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- ・学力が低く、学力の基礎基本が定着していない。
- ・既習事項を忘れてしまったり、活用できなかったりする。
- ・前の単元でできていた問題が、新しい単元を学習すると解けなくなってしまう。
- ・学習に対して自主的に取り組む意識が低い。
- ・漢字への苦手意識や語彙を知らないことから自分の意見を表出することが難しい児童が多い。

《授業改善のポイント》

- ・板書だけでなく、デジタル教科書や教材を活用し見やすく分かりやすい授業を行う。
- ・既習事項を繰り返し行う時間を設ける。
- ・練習問題を多くし、問題に慣れ、基礎基本の知識の定着を図る。
- ・児童の関心が得られるような、問題提示や解説などを行うようにする。
- ・読みのアセスメントなどを取り入れる。
- ・主体的な学びを進めるためには、児童自らが課題意識をもつような教材を提示したり、「何を」「どのように」学ぶかという見通しをもたせることも取り入れていく。

《チャートの特徴》

- ・全国平均を超える項目がほとんどない。
- ・算数への興味関心や規範意識は、比較的事実が見られる。
- ・算数の平均正答率と主体的な学びが大きく平均を下回っている。
- ・基本的生活習慣や自己有用感も下回っている。
- ・国語の関心や対話的な学びは全国平均に達していない。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・個人面談や保護者会などで、現状を伝え家庭でも基礎基本の定着への協力を呼び掛ける。
- ・放課後補習への参加や家庭学習等への取り組みの協力を得る。